

第4回開発資金国際会議

(FfD4)

松本尚外務大臣政務官によるステートメント

(2025 年 7 月 2 日、於:スペイン・セビリア)

1. 冒頭挨拶・これまでの FfD プロセス

議長閣下、
ご列席の皆様、

日本国外務大臣政務官の松本尚です。FfD4 において日本政府を代表して発言できることを大変光栄に思います。

現在、世界はかつてない複合的危機に直面しています。これに立ち向かうには、国際社会の結束と迅速な行動が必要です。ここセビリアに集う私たちは、決意をもって行動しなければなりません。

2. 人間の安全保障の理念に基づく日本の取組

時代は移り変わります。モンテレイでの第 1 回 FfD 会議や、2015 年の SDGs 採択以降、世界は大きな変化を遂げました。

FfD の開始当時、人間の安全保障の概念が登場し、日本がその推進を主導しました。時代が変わっても、「人間一人ひとりに着目し、脅威から人々を守り、それぞれの持つ豊かな可能性を実現する」というこの理念は、いまなお不可欠です。その上で、現下の課題に対処するためには、3 つの優先事項があると考えます。

(1) 自助とそれを支える連帯

第一に、自助とそれを支える連帯です。日本は第二次世界大戦後、国際社会からの支援を受け復興を果たし、その後主要なドナーとなりました。日本は引き続き国際社会の一員としての責任を果たす所存です。その上で、複合的危機に効果的に対応するためにはそれぞれの国が自助努力を行いつつ、様々な主体による協力が必要です。かつて支援を受けた国が支援を提供する側に回るという好循環を生み出すべきです。

(2) 民間資金動員及び国内資金動員

第二に、民間資本と国内資金の動員を強化すべきです。開発途上国への民間資金フローは、長らく ODA を上回っています。途上国内外の民間主体を巻き込む資金動員の取組がますます重

要です。この観点から、日本はこれまで、途上国における税制・財政に関する制度面での改善や制度の着実な実施を支援する技術協力を行い、途上国内の資金動員の基礎づくりに尽力してきました。また、日本は今年法改正を行い、JICA の金融手法等を拡充しました。

すべての資金源を動員することがこれまで以上に求められています。

(3) 透明で公正な開発金融

第三に、透明性と公正性に基づき、国際ルールやスタンダードと整合的な形で開発資金を促進すべきです。債務の持続可能性に配慮しない貸付慣行は、受益国の持続的な発展を妨げます。持続可能性と受け手側の主体性を損なうことのないよう、透明かつ公正な協力のルール・ガイドラインを守ることが不可欠です。

3. 結語

来月には横浜で、アフリカ各国首脳に参加を得て、第9回アフリカ開発会議（TICAD 9）を開催します。TICAD 9 では、アフリカにおける産業発展、雇用創出、持続可能な成長の促進を目指し、民間資金の更なる動員についても議論しようではありませんか。

結びに、日本は、人間の安全保障の理念の下、SDGs の達成に向けて力強く取り組む決意を改めて表明いたします。

ご清聴ありがとうございました。

（了）